地域の先生方と
高崎総合医療センターを結ぶ

こくたか連携だより

2018年発行
第139号

8月号

地域連携症例検討会
画像診断科の診断と治療の連携 …… 2～3
画像診断科部長　根岸 幾

高崎総合医療センター 第14回登録医大会のご案内 … 3

市民健康医学講座
元気で長生きするために今日からできること
～身体と頭と飲み込みの体操～ …… 4～5
リハビリテーション科
理学療法士　小林 未知矢　　作業療法士　矢島 ひかる
言語聴覚士　川原 優美

医療安全講習会
「身体抑制をしない医療」を開催して …… 6
医療安全管理係長　深代 美由紀

臨床検査科だより …… 7
栄養だより …… 8
ほっとさろん・たかさき …… 9
医師紹介コーナー …… 10
地域医療連携登録医のご紹介 …… 11
セカンドオピニオンのご案内 …… 12～13
外来診療担当表 …… 14～15
院長室だより/行事などのお知らせ …… 16

タマスダレ
（6月～9月）
‥ 花言葉 ‥
「汚れなき愛」「期待」
「便りがある」

●地域医療支援病院　●がん診療連携拠点病院
独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター

〒370-0829 群馬県高崎市高松町36
代表 (TEL) 027-322-5901
URL http://www.tnho.jp/
地域医療支援･連携センター(医療機関専用ダイヤル)
(TEL) 027-322-5835
(FAX) 027-322-5925

【理念】
患者さんから信頼される病院を目指します

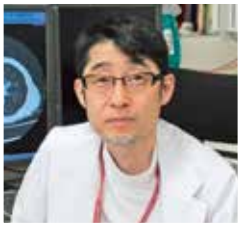
【基本方針】
- ●常に患者さん本位の医療を心がけます
- ●研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- ●医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- ●良き医療従事者の育成に努めます
- ●臨床研究を推進します
- ●健全な病院経営を行います

【看護の理念】
人間の尊厳を大切にし、専門的な知識、技術を持ち、心のこもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】
- ●誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- ●患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- ●病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- ●他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- ●病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- ●医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

第11回 地域連携症例検討会

画像診断科の診断と治療の連携



画像診断科部長 根岸 幾

この記事をお読みになられる皆様方には、平素より大変お世話になっております。まずは深謝申し上げます。

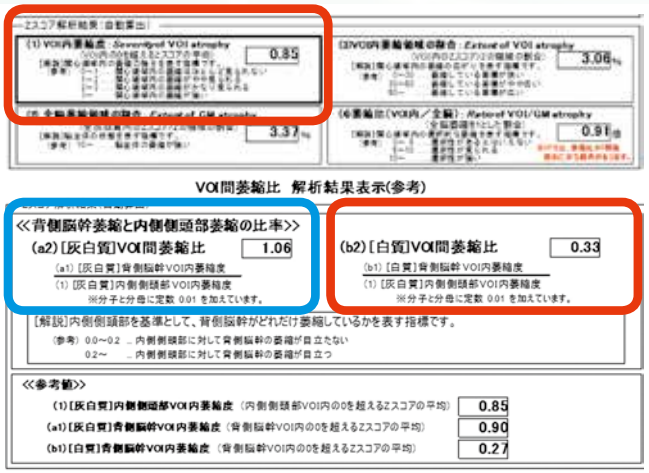
去る6月6日水曜の19:30より、「画像診断センター」のご紹介を兼ねまして、地域連携症例検討会を開催させていただきました。あいにくの、雨にもかかわらず、大勢の地域医療に携わる先生方・医療関係の方々のご参加を賜ることができました。

画像診断センターは2008年4月に診療放射線科として新規開設され、2012年3月に放射線診断科に改称し、2012年7月より「画像診断センター」が開設されました。CT検査、MR検査、核医学検査（RI）、血管撮影（IVR）の検査数をお示しします。

	2008年	2012年	2017年
CT	12,419	18,404	25,580
MR	3,642	6,049	8,198
RI	1,367	1,163	1,630
IVR	779	1,550	1,956
紹介	222	500	695

10年間でRIを除き2倍以上の検査数の増加を達成しております。これは、ひとえに、地域の先生方の当センターに対する信頼の証と考えられました。2009年9月の改築時を境に、救急科・消化器科・脳神経外科が増強され当院の発展に大いに寄与し、当院で医療を完結できる体制になり、西毛地区で唯一総合医療センターとして機能しております。各科の充実と相まって画像診断センターでも、大型医療機器共同利用を科開設時から力を入れて受け入れてまいりました。2016年4月からはインターネットCTも受け付け開始いたしました。地域の先生方のご理解もありまして、ご紹介の件数の増加があり、深く御礼申し上げるところとなりました。

症例検討では、最近の要望として、認知障害のスクリーニング検査「VSRAD」のご説明をさせていただきました。自動車運転免許更新のチェックにご活用いただけます。

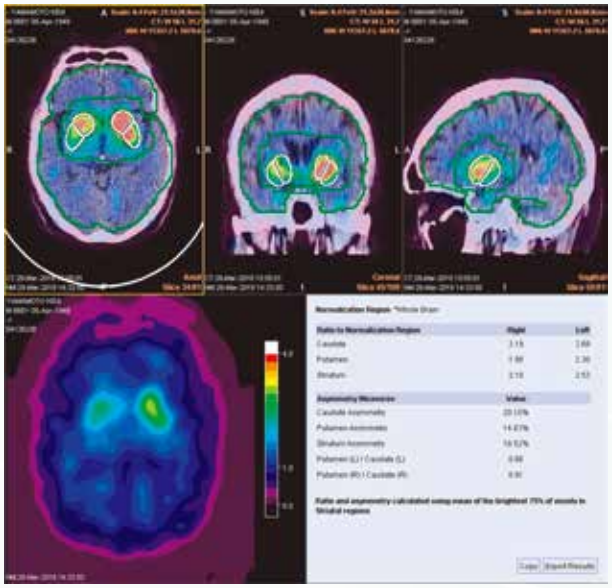


- VOI内萎縮度
  - 1＞ …… 萎縮なし
  - 2～1 …… やや萎縮
  - 3～2 …… かなり萎縮
  - ～3 …… 強い萎縮
- 上記VOI内萎縮度が＞1の場合においては
  - (a2)皮質VOI間萎縮比
  - (b2)白質VOI間萎縮比

がともに「0.2」をこえればパーキンソン病やびまん性レビー小体認知症（DLB）の可能性があります。異常があれば脳血流シンチが勧められます。

その他には、ご紹介症例の内訳、診断の難しい症例（膵癌等）を提示させていただきました。

その他に、パーキンソン病、レビー小体病に役立つDATスキャン：ドーパミントランスポーターレセプター画像を紹介させていただきました。



さらに内視鏡困難な方のCTコロノグラフィーも施行しております。

まずは、画像検査でお困りの際はお電話をいただければ、より良い解決方法をご相談させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

高崎総合医療センター
第14回 登録医大会のご案内

日　時　平成30年11月7日　水曜日　19時から

場　所　**ホワイトイン高崎　5階　グレイス**
高崎市赤坂町94　TEL 027−325−5858

第14回登録医大会を開催いたします。登録医の先生方には案内状を送付させていただきました。お手数ですがご来否のお返事をお願いいたします。多くの先生方のご出席を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先

高崎総合医療センター 地域医療支援・連携センター
医療機関専用ダイヤル：027-322-5835

元気で長生きするために今日からできること
～身体と頭と飲み込みの体操～

市民健康医学講座

みなさん健康寿命という言葉をご存知ですか？男性・女性ともに平均寿命が80歳を超えた今、医療費や介護給付費などの社会的負担を軽減させるためにも健康で生き生きと生活できる期間（健康寿命）に注目が集まっています。

今回はリハビリテーション科3名より健康寿命を延ばすためのアドバイスやご家庭でできる体操などのお話をさせていただきます。

運動機能
～ロコモを予防するために～

理学療法士　小林 未知矢

運動機能が低下することとして注目されている「ロコモティブシンドローム（通称ロコモ）」は本邦でも増加傾向にあり、これを予防することで健康寿命の低下を防ぐことができます。自宅ではロコモを予防する体操（ロコトレ）として「片脚立ち」「スクワット」から始めましょう（図１）。また全身運動として「ウォーキング」や「ラジオ体操」なども効果があります。一番重要なのは習慣化し継続していくことです。ご自身に合った安全な方法で行ってみてください。

図１　ロコトレ

認知機能

～趣味活動、家事動作を続けるために～

作業療法士　矢島 ひかる

認知機能とは物事を解決するために深く考えるときの頭の働きを言います。認知機能が低下すると、生活上の様々な事に支障が出ます。例えば、買い物でのお金の計算に手間取ったり、自動車運転の事故が増えたりしてしまいます。その結果、趣味活動が難しく、家庭内での役割活動が減り、徐々に外出機会も減っていってしまいます。しかし、認知機能というのは日々の心がけによって予防をすることが出来ると言われています。一日の中で少しでも頭を使って考えたり、人と触れ合ったりすることが認知機能の低下の予防に繋がります。ご家庭で簡単に出来る頭の体操をぜひためしてみてください（図２）。

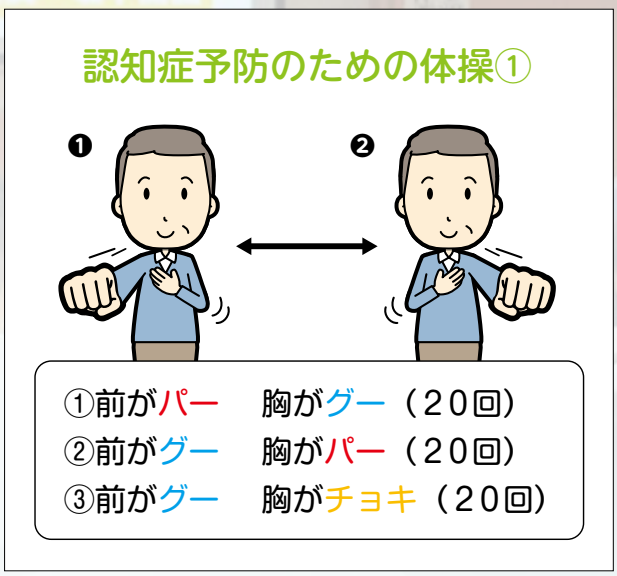


図２　認知症予防体操

摂食・嚥下機能

～安全においしく食べるために～

言語聴覚士　川原 優美

私たちは「食べる」ときに、食べ物を認識するところから始まり、口の中へ取り込み咀嚼して飲み込んだあと、食道から胃に送るという動作を行っています。このどこかで問題が起こることを摂食嚥下障害といいます。これは様々な病気等が原因で起こりますが、加齢によっても引き起こされることがあります。中でも、上手に飲み込めず飲食物が誤って気管に入ってしまう「誤嚥」は肺炎や窒息につながり、さらには低栄養や脱水、全身の体力の低下など全身の様々な問題につながっていきます。飲み込む力を保つためにいろいろな方法がありますが、今回はその中で、のどの力をつける方法をご紹介します。ぜひ行ってみてください。（図３）。

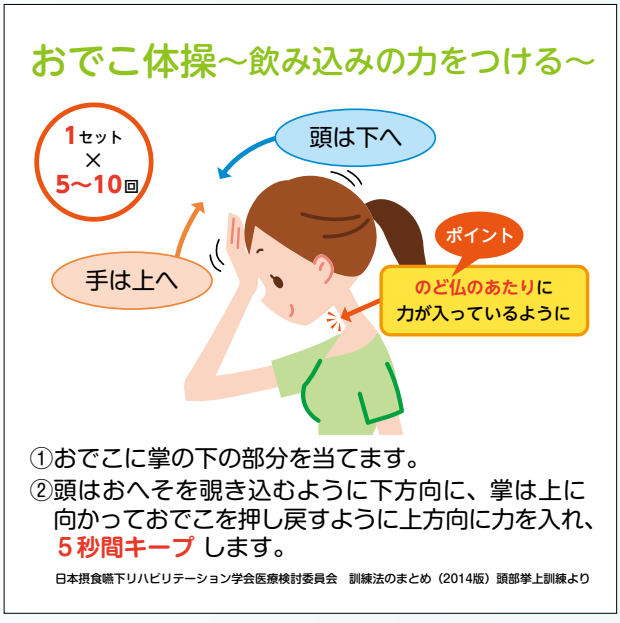


図３　おでこ体操

医療安全講習会

「身体抑制をしない医療」を開催して

医療法人大誠会 内田病院
田中志子理事長

医療安全管理係長　深代 美由紀

6月26日に全職員対象の医療安全研修として、大誠会内田病院の田中志子理事長をお招きして「抑制をしない医療」について講演会を行いました。田中志子先生は重度の認知症やせん妄の患者さんであっても、抑制しないケアの中で残存する機能を呼び起こし、患者さんを適切な場所への退院に導いていることで広く知られています。

当院は超急性期病院であり、生命の危機状態にある患者さんが多く、そのような状態の患者さんは、生命を維持するために気道確保用のチューブや多数の点滴が挿入されています。高齢の患者さんは、急性期治療を受ける際に環境の変化による混乱から大事な管や点滴を自分で抜いてしまったり、急激な体力の低下による転倒で骨折や硬膜下血腫などを発症してしまう場合があります。それらの事故を防ぐために、ご家族に了解を得て、手足など体の一部を“抑制”させていただく場合があります。しかし、医療者はできれば患者さんを抑制したくないという思いの中で、「患者さんの安全を守るために仕方ない」とジレンマを抱きながら抑制している現状です。

田中先生は、急性期病院だから抑制は仕方ないと捉えるのではなく、専門的な知識やプロフェッショナルとして安易に縛ってはいけないという信念をもつことが重要だと述べています。具体的方法として、初期段階からの内服薬コントロールや療養環境の調整、職員全員で患者さんを見守る体制、気道確保用のチューブや点滴から患者さんの注意をそらす方法など、たくさんの知識を教えて頂きました。内田病院のビデオでは、入院時にひどく感情的だった患者さんが徐々に笑顔を取り戻し冗談を言って周りを笑わせる様子や、長い寝たきり生活で足が拘縮していた患者さんが歩行訓練するまでに回復した様子などを見せていただきました。抑制しない医療の効果を実感し、研修後のアンケートには「感動して涙が出た」「医療、看護の力を感じた」などの感想がありました。

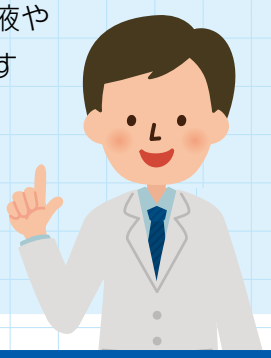
現在当院でも、認知症ケアチームやせん妄対策チーム、看護安全対策委員会などが抑制しない医療を推進する活動に力を入れています。田中先生の講演を参考に、職員全員で患者さんを見守り、専門的なケアを提供し、「抑制をしない医療」の実践につなげていきたいと考えます。

臨床検査科だより

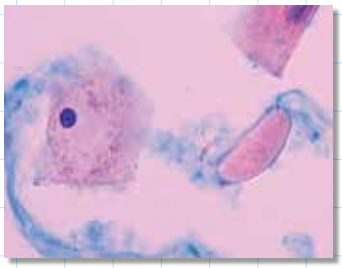
Vol.23

一般尿検査「沈渣」

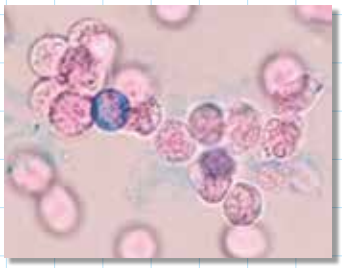
尿はほとんどが水分ですが、健常者であっても微量ながら有形成分が含まれています。尿沈渣の検査は、この有形成分を顕微鏡で鏡検し形態的特徴により種類分けする検査です。沈渣成分は量が少ないので、遠心器に掛けて下に溜まった残渣を用い、鏡検し易くするために染色することもあります。沈渣成分は、腎臓の濾過処理から漏れてきた赤血球、白血球といった血液や腎尿路系の上皮細胞、さらに塩類の結晶および細菌などがあります。検査をするまでに長時間、検体を放置してしまうと細菌が増えたり、細胞が変性したりして正確な結果を得ることが出来なくなるのでなるべく迅速に検査しなければなりません。尿定性、定量、沈渣検査と合わせて腎・尿路系疾患や全身状態のスクリーニングとして重要な検査です。



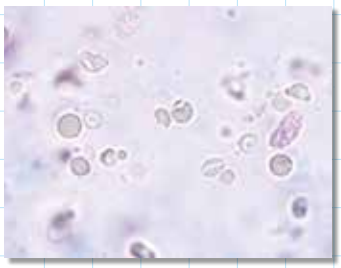
沈査の種類	臨床的意義	
赤血球	腎、尿路系からの出血や炎症（急性糸球体腎炎、IgA 腎症、腎梗塞、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎）、結石症、腫瘍、出血性素因（白血病、紫斑病など）。尿の色が赤く無くても顕微鏡で 5 個 /HPF 以上出現すれば顕微鏡的血尿となる。 （HPF：顕微鏡で 400 倍にして観察したときの 1 視野範囲を言います。）	
白血球	感染症や炎症性疾患（腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎）。出現する白血球の種類は好中球が多いがリンパ球、単球のこともある。	
上皮細胞	健康な人でも新陳代謝等により尿中に出現するものや、ウイルスに感染して剥がれたもの、悪性腫瘍や脱水などにより出現するものがある。細胞の種類は尿細管上皮細胞、尿路上皮細胞（移行上皮）、円柱上皮細胞、扁平上皮細胞です。	
	尿細管上皮	尿細管由来の上皮、尿細管障害、ネフローゼなどで多く出現。
	尿路上皮細胞	腎盂、尿管、膀胱、尿道に由来する上皮、これらの炎症性疾患で認められ特に腎盂腎炎で多く出現。
	扁平上皮	尿道、膣に由来する上皮。これらの部位の炎症性疾患で多く出現。
細菌	採尿時の細菌混入（正常でも尿道付近などには大腸菌等が存在）、尿路感染症で増える。	
結晶	摂取した飲食物や体内の塩類が酸塩基平衡状態によって排出され、pH や温度といった尿の状態により結晶化し健常者であっても尿中に認められる。酸性尿では尿酸結晶、尿酸 Na、シュウ酸 Ca など。アルカリ性尿ではリン酸 Ca、リン酸アンモニウムマグネシウム。その他で服用・投与された薬物に由来する薬物結晶。病的結晶ではロイシン、チロシン、シスチンなどがある。	
円柱	尿が尿細管内で停滞してアルブミンと結合しゲル化したもの。透明で細長い形状をしていて、内部に上皮、血球、脂肪などを取り込んでいるものもある。これらの数や大きさ、太さなどの形状や内部に取りこんでいる細胞の種類などから腎障害の程度を推測することができる。	



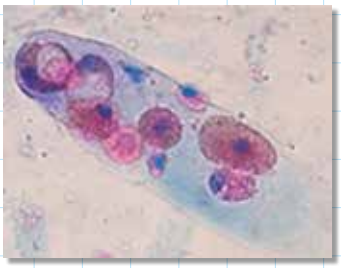
扁平上皮



白血球



赤血球



円柱

栄養だより

飲み込みづらさ、感じていませんか？

加齢により身体には様々な変化がおこります。噛む力や飲み込む力など食事をとる機能が低下すると、食事に時間がかかったり、むせやすくなることがあります。食べ物が食道ではなく、気道や肺に入ってしまい、肺炎などの感染症や窒息を引き起こす場合もあります。

飲み込みやすい状態とは、

❶べたつかない　❷まとまっている　❸ゆっくりと滑るような状態

食品をそのような状態にするか、とろみのある衣（あんかけ、マヨネーズ等）で食品をくるむことで、食べやすくすることができます。

飲み込みやすい食べ物の形態

❶粥状

おかゆ、パン粥、くず湯など

❷マッシュ状

じゃがいも、さつまいも、南瓜など
（ぱさつきを防ぐため適度な水分を含ませましょう）

❸ミンチ状

ハンバーグ、肉団子、つくね、つみれなど

❹ポタージュ状

シチュー、ホワイトソース、デミグラスソースなど

❺プリン状

卵豆腐、プリンなど

❻ゼリー状

フルーツゼリー、コーヒーゼリーなど

❼ヨーグルト状

ヨーグルト、ババロアなど

また、液体はのどを流れるスピードが速く、誤って気道に入り込みやすいため、むせやすい食品の一つです。液体にとろみをつけることで口の中でまとまりやすくなり、のどを流れるスピードがゆるやかになるため、「むせ」を防ぐことができます。

とろみ調整食品はドラッグストアや通信販売等で購入することができます。
適切なとろみの強さは、召し上がる方によって異なります。強すぎるとろみは、飲み込みづらくなったり、食欲低下につながることもあります。専門の医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、管理栄養士等にご相談の上、適切にご使用ください。

がん相談支援センター

病気や療養、生活に対する不安など　お気軽にご相談ください。

- 今後の検査や治療のことが不安
- 治療の副作用が心配
- 療養生活に関する情報がほしい
- セカンドオピニオンについて相談したい
- 緩和ケアに関する情報を知りたい
- 仕事はどうしたら良いか？
- 在宅医療や介護保険など住宅ケアに関することを相談したい
- 禁煙に関すること

などなど

相談窓口　１階　６番入退院センター隣

電話相談　027－322－5901（代）「がん相談希望」とお伝え下さい。

相談受付時間　平日　８時30分～17時15分

がん患者さんやそのご家族の集いです

ほっとさろん・たかさき

病気のことや日々の生活のことなどお茶を飲みながらお話ししませんか？

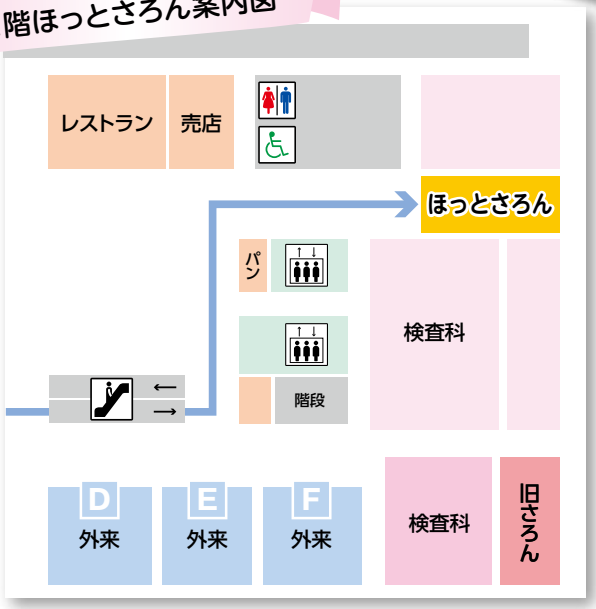
当センターでは、がんさろんを月1回開催しております。
がん患者さんやそのご家族に、ご自由に参加して頂いております。
事前の申し込みは必要ありません。

と　き：毎月 第四金曜日
13時30分～15時30分

ところ：高崎総合医療センター2階　市役所側
売店右奥　検査科横
※場所が変更になりました。

当日は、高崎総合医療センター相談支援センターの看護師やソーシャルワーカーも参加いたします。

2階ほっとさろん案内図



●当院へ駐車の場合、駐車料金がかかりますのでご了承ください。
（２時間まで無料　以降１時間100円）
さろんについてのお問い合せは、高崎総合医療センター**相談窓口**までお願い致します。
電話：027－322－5901（病院代表）

医師紹介コーナー

●心臓血管外科医長

もはら　じゅん
茂原　淳

はじめまして、4月に赴任してきました、心臓血管外科の茂原淳です。生まれも育ちも群馬の生粋の上州人ですが、細かく言わせていただくと、生まれも育ちも（高崎とは永遠のライバル関係と言われている）前橋です。平成5年に群馬大学を卒業し、平成6、7年にまだ国立高崎病院という呼称だったころ、この病院で研鑽を積みました。よなよな急患や、緊急手術で（柳川町で飲んで）、お湯の出ない研修棟に寝泊まりし、院内の喫茶店のモーニングを頬張り、病棟へ駆けて行ったのが、ついこの間のように思い出されます。時は流れ、高崎総合医療センターという呼称となり、建物は一新され、院内にはコンビニやパン屋も完備し、20数年ぶりに赴任した当院は目を見張るばかりです。そしてもちろん、医療スタッフの充実ぶりは、群馬県内に知られるところだと思います。このような病院の一員として、医療の充実に貢献していく所存であります。これからどうぞよろしくお願いいたします。

●整形外科医長

しだ　こうすけ
信太　晃祐

はじめまして、平成30年４月より整形外科で勤務しております信太　晃祐と申します。高崎高校出身で、平成12年に自治医科大学卒業後、県内のさまざまな病院で勤務してきましたが、高崎で働く機会はありませんでした。医師になって18年目にして初めて高崎で働ける事となり、感慨深いものがあります。病棟から白衣観音を見ることができるのもうれしい限りです。

診療は　一般外傷（四肢の骨折、捻挫など）と脊椎疾患を中心に行っています。脊椎とはいわゆる背骨のことで、背骨で神経が圧迫されると四肢の痺れ・痛み、運動障害が起こることがあります。これらに対して、必要に応じて手術を行っています。

地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯診療させていただきますので、何卒よろしくお願い致します。

地域医療連携登録医のご紹介

地域医療連携登録医の皆さまと
パートナーシップを組んで診療に取り組んでいます。

群馬循環器病院

群馬循環器病院
院長
平井 立志

院長あいさつ

循環器疾患を中心に総合的に診ています。特に虚血性心疾患に対するカテーテル治療に注力しており月に40件ほど実施しています。地域に根付いた、患者さんに安心していただける病院を胸に刻み職員一同精一杯取り組んで参ります。

診療科・病院案内

循環器科・消化器科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(8:30～11:30)	●	●	●	●	●	●	
午後(16:30～18:00)	●	●	●	●	●		

群馬県高崎市中尾町1230　TEL:027-361-7200

一般病棟（2階3階49床）と療養病棟（4階5階50床）の病院です。救急から看取りまで幅広く対応しています。関越道高崎ＩＣ、前橋ＩＣのどちらから降りても当院へのアクセスは良いので、遠方にご家族がお住まいの方にも喜ばれております。

ひらが脳神経外科

ひらが脳神経外科
院長
平賀 健司

院長あいさつ

患者さま一人ひとりの話をじっくり伺うことを心がけ、地域の皆様から信頼され気軽に相談していただけるかかりつけ医として努力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

診療科・病院案内

脳神経外科・内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(9:00～12:00)	●	往診日	●	●	●	●	
午後(15:00～19:00)	●		●	●	●	●14時～17時	

※祝祭日のある週は火曜も診療致します。

群馬県佐波郡玉村町大字角渕5067　TEL:0270-30-2121

玉村にある脳神経外科です。MRIを設置しており、予約なしで撮影できます。
親切で温みのある対応を心掛けております。